

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4170500161		
法人名	有限会社ティーム		
事業所名	グループホームうらら		
所在地	佐賀県伊万里市黒川町大黒川1390-1		
自己評価作成日	令和 5年 9月 13日	評価結果市町村受理日	令和6年1月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号
訪問調査日	令和 5年 10月 27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者のベッドや車椅子への移乗の際に電動リフトやスライディングボード、入浴の時にも状態に合わせて、浴用リフトやシャフトローリーを使い、利用者や介護者の負担を軽減する道具を揃えている。コロナ感染対策にも最大限注意を払い力を入れている。(これまで入居者様が感染していない)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは窓辺より季節が感じられる自然豊かな環境にある。ホームの前にはバス停があり、小学生や地域の造船場で働く諸外国の方が利用され、挨拶や道案内などホームに尋ねに来られることもある。裏の小学校からは運動会の招待状が届くなどの交流が続いている。近隣の保育園との交流を図ろうと現在働きかけを行っている。中庭には手入れされた季節の植物や置物が設置され、バーベキューなども行われており、ホームの敷地内でも季節の移り変わりを感じることができる。また、入居者へのケアの取り組みには職員の意見や工夫が反映され、取り組みを知ってもらう機会として運営推進会議内で伝えている。職員同士や入居者の個々の個人を尊重し、お互いに支えあい、穏やかで安全・安心した生活を過ごせるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を職員が常に目に着くところに掲げ確認し合うとともに、具体的に実践できるよう話し合っている。理念についての全体研修会を行った。	年に2～3回、理念について、全体研修の中で行き、日々の業務につなげられるよう意識づけをし、朝夕の申し送りも、理念の振り返りの場となっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	公民館活動で作られた野菜や果物を持参して下さっている。今後はコロナウイルスの感染状況を見ながら地域交流を深めていきたい。	公民館活動での野菜や果物をいただくので、ホームのおやつや食事として活用している。ホームの前のバス停を利用している近隣の小学生と窓越しに手を振ったり、運動会の招待を受けたりと交流が続いている。今後は近隣の保育園児との交流を図る準備をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の折、家族や地域の方の参加者に対し、現場の取組みなどを報告している。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ制限の緩和に伴い、5月と7月に黒川公民館にて顔を合わせて意見交換を行い、サービスの向上に活かす事が出来た。	奇数月に近隣の公民館で開催されている。会議の中では、ホーム内で実施した研修や取り組みを報告をし、参加者からも活発な意見や助言を受けることができています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターとの密な情報交換を行いながら、ケアを必要とされる方の入居に繋がるよう取り組んでいる。	地域包括支援センターからの入居受け入れなどの相談もあり、情報交換など協力関係を築くよう取り組んでいる	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月に1回、身体拘束委員会で協議を重ね、年に2回施設全体の研修を行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。現在、身体拘束の該当者はおられない。	身体拘束適正化委員会を設置し、3ヶ月に一度委員会を開催している。年2回施設全体の研修を行い、身体拘束にたよらないケアに取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入居者に対する言葉づかいや態度をお互いに確認し合っている。虐待防止に関する研修会にも参加し、ホーム内でも事例を出し虐待防止に努めている。令和5年度は、委員会を設置し会議や研修会を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を必要な方があれば、活用できるよう学びをしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書、契約書をもとに説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や定期的な電話連絡を行い、日々の状況報告をしたり、ご意見を聞いたりして相談しやすい関係ができています。運営推進会議で外部委員の方々の意見もお聞きすることが出来た。	運営推進会議や面会・SNSにて意見や要望を聞き、職員へは都度伝えたり、朝夕の申し送りのときなど適宜共有を行っている。運営推進会議で職員研修で学んだことを知りたいとの声があったため、推進会議でも職員研修についても報告するようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝のミーティングなどで意見交換が行われ、スタッフの意見や提案等を運営に活かしている。代表者や管理者とも話す機会を積極的に持つようにしている。	ホーム長が職員の意見や要望を聞き、代表者と意見交換を行い運営に反映している。職員から抱える介護による腰痛の不安の声があったため、入居者にも安心して介護をうけてもらえるようにリフトなどを導入することにつながった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の個々の状況を把握し、個人的な評価や待遇に努めている。職員への福利厚生に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人的なかかわりを持つ機会を増やし、個人に応じた支援が出来るよう努めている。必要な研修にも参加できるよう機会の確保にも取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の研修会に参加した際など、同業者の方々と意見の交換を行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する前は、ご本人のニーズに的確に対応できるよう情報収集に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する前にご家族との話し合いを持ち、希望されることに耳を傾けることで関係づくりができるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する前にミーティングを行い、入居前の面接の情報をふまえ、まず、その時必要な支援を見極められるよう話し合っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	積極的に食器洗いや洗濯物を干したり等の家事を手伝って下さっている方もおられる。出来る限り自立した生活が出来るよう心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的に家族と連絡を取り、ご意見を積極的に聞くことにより、共に支援していく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	各自のなじみを把握し、なるべく個人対応できるように努めている。コロナ制限の緩和もあり、感染予防を行いながらではあるが、面会や行きたい場所への外出も出来るようになった。	通院の送迎時に自宅の近くを通ったり、自分の田畑を見たいと意向があった入居者を連れて行ったりと適宜個別で対応している。送迎時に、職員の応援が必要なおときには、同敷地内の同法人のホームで協力体制がとれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホーム内での活動を充実させ、入居者同士の交流が出来るようにしている。(風船バレーや卓球、カラオケ等のレクを一緒に行った。)		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個人の意向を確認するよう努めている。(買い物、散歩、ドライブなど)。希望が言えない方については、生活歴やご家族からの情報をお聞きしその方のご希望に添えるよう心がけている。	地元に関連した話題を通して、行きたい場所や食べたいものなど意向を引き出すなどの工夫を行っている。また、発語が難しい方は、家族からの情報を参考したり、職員間で意向をくみ取る工夫をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の調査により出来る限りの把握に努めている。入居後も御家族の面会時にお話を伺ったり、ご本人と思い出話をしたりして情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日バイタルチェックを行い、その日の健康状態を把握し、体調に応じてその日の過ごし方や作業内容の工夫を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的(3か月)に担当者会議を行い、担当者の意見や家族の意見を参考にし、全スタッフで評価を行い支援内容を見直し、介護計画を作成している。	3ヶ月に一度のモニタリングが行われており、本人・家族・職員の意向を反映した計画作成が作られている。日々の介護記録を記入する時は、介護計画がいつでも確認できるように、様式の工夫がなされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子、ケアプランの実施状況、健康状態の変化、気づきなど記録し、情報共有するとともにケアプランの見直しに活かせるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご本人のニーズについての検討会を持ち、臨機応変にサービスを提供できるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍においては地域資源の活用はほとんど出来なかった。今後コロナ感染状況見ながら、少しずつでも地域資源の活用が出来るよう取り組んでいきたい。地域から栗拾い見学に招かれている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関との連携を密にし、病状により専門医(泌尿器科・婦人科等)受診をしたり、歯科・眼科の往診を受けている。	協力医と協力歯科医の定期的な往診があり、必要時には専門医などの受診も家族の希望があれば、家族で受診ができるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態等の変化があれば、素早く看護職に伝え、迅速な検討をし、適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時の情報交換や相談に努めている。主治医や看護師長に報告、相談を行うと共にソーシャルワーカーとの連携も密に行い、治療が終わればすぐに退院出来るよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末に向けた方針をご家族に伝え、ホームで出来る事を確認しながら、医療機関との連携を図りつつ支援している。今年度は看取りの方はいなかった。看取りの研修は年1回行った。	入居時に重度化や終末期に向けた方針を伝え、家族に説明を行い、同意書をとっている。主治医と家族、職員で面談を行い、ホームでの看取りもできるように取り組んでいる。看取り対応後は、職員間で振り返りを行う場も設けたり、運営推進会議で報告することで共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応法、応急手当等のマニュアルを準備し、確認、急変時の対応の訓練を行っている。7/14 伊万里消防署員の方が講師として施設に来られ救急救命講習会を行った。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策委員会を設置し定期的な話し合いを行い、避難方法の確認、訓練を行っている。5月には伊万里消防署員の方々が訓練の見学に来られ助言を頂いている。地域の黒川消防団の方々と緊急時の協力体制を取っている。	火災避難訓練は、全員参加で年2回行われている。居室入口には、避難が終わっているか外から目視できるような工夫がなされている。備蓄の消費期限の管理を行うため、備蓄は1か月単位で食事の際に提供している。近隣住民にも避難訓練の見学から参加していただけないかチラシを作成し、配布をするなど取り組みを続けている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人の生活歴を把握し、その人の立場に立って物事を考えることが出来るよう心掛け、配慮した言葉かけを行っている。	個人情報のファイルは戸棚に名前が見えないように配慮している。トイレや入浴など、希望があれば、同性介助を行うなど、一人ひとりにあったケアを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思いや希望を確認するようし、職員が決定権を持つのではなく、主導権を利用者が持てるように、待つ体制を心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限りお年寄りのペースに合わせ、一人ひとりに応じた食事の時間や、希望に即した入浴が提供できるよう支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時に洗面できない方はおしぼりを提供したり、整髪し身だしなみができるよう、一人ひとりに応じた支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も入居者の方といっしょに会話をしながら食事をしている。入居者の方も各人の力に応じて、準備や片付けを手伝って下さっている。	入居者ができることを見つけ、下膳や後片付けなど職員と一緒に進んでいる。バーベキューやお菓子作りなど、食事を楽しむことができるよう入居者の意見を食事に取り入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各人の食事の適量を把握し、また、各人の身体状態に応じた食事形態(おかゆ・刻み・ミキサー食など)を提供している。また、栄養改善のためのサプリメントを服用して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、各人の能力に応じた口腔ケアを行っている。必要な方には歯間ブラシで介助したり、コンクールを滴下した水でうがいをして頂いている。毎日ポリドントを使用している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行っている。また、羞恥心に配慮しながら対応している。オムツや尿パッドの削減に向けても話し合いを持ちながら、支援している。	定時に声掛け・誘導を行い、排泄チェック表で確認しながら誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給に心掛け、ヤクルトやヨーグルト、オリゴ糖を取り入れたり、運動(リハビリ体操・レクリエーション)を行い便秘の予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望に合わせて入浴できるよう支援している。出来ない時には状況に合わせて、シャワー浴・清拭・ドライシャンプー・手浴・足浴などを行い清潔保持に努めている。また、寝たきりの方が安楽に、安全に入浴して頂けるようトローリーを購入し対応している。	週に2~3回の入浴ができている。本人の状況に合わせて、いつでも入浴ができるようにしている。本人の体調に合わせて、清拭・足浴・シャワー浴も個々にそった支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は体調を見ながら午睡を促したり、夜間帯は定期的な見回りお行い、安心して気持ちよく眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	新しい利用者の入居時にその人の病状や飲まれている薬の確認を処方箋を基に職員同士で行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	カラオケ・童謡・演歌など歌がお好きな方、野球や相撲などスポーツがお好きな方、コーヒータイムを楽しみとされる方、各々の楽しみを持つていただけるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの感染状況を見ながら、人の多い所への外出は避けているが、中庭やホーム周辺の散歩をしたり、少人数でのドライブで気分転換できるよう心掛けた。ふるさと訪問では、地域の様子を懐かしく見て頂く機会を持つことが出来た。	日常的に散歩やドライブなど、入居者の希望時に対応している。花見など季節の行事では、併設のグループホームと車を共有して、外出できるように支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則、入居者の方は金銭は持参しておられないが、希望される時にはいつでも使えるよう準備はしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があるときは電話をかけて頂いている。耳が聞こえにくい方には、スタッフが仲介しながらお話して頂いた。また、お手紙が掛ける方は、ご家族との手紙のやり取りが出来るよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビやスタッフ音量が不快や混乱とならないよう配慮している。また、室温と湿度の管理を行い、換気にも心掛けている。玄関や廊下、リビングではエアドッグ、バイオゾーン等の空気清浄機を利用し、気持ちよく、また衛生的に過ごして頂けるよう工夫している。	空気清浄機設置を各所に設置され、温度・湿度計で確認して、エアコンを調整するなど、快適な室内環境作りに努められている。また、絵画がかけられており定期的に変更されている。入居者が人間関係が円滑になるような席への配慮もなされており、共有空間は穏やかなで居心地の良い空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングで一緒にテレビを見たり、また、個室で静かに読書をしたりテレビを見たり出来るように一人一人に気を配って対応している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者のなじみのもの、希望の品などニーズに合わせて、その都度対応している。テレビを希望される方には居室に設置できるようにしている。	居室内での持ち込み禁止はない。本人・職員が安全に配慮した工夫があり、また、本人が使いやすいように家具等がおかれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ等に表示をし、出来る限りご自分で動けるよう配慮している。また、台所や洗面所などの見える範囲に危険な物を置かないよう安全に配慮している。		